

S S H 成果発表会 (その 2)



(前号からの続き)

4 S S H 特別講演

プレゼン発表会終了後、元 J A X A 有人宇宙技術部長の柳川孝二さんを講師とする講演会を行いました。高度な専門性をもつ内容を、高校生に分かりやすく伝え、興味・関心を持たせるためのさまざまな工夫が施された、大変素晴らしい講演会でした。その後、生徒有志との座談会まで開いてくださり、大変有り難かったです。柳川さんの宇宙や科学技術にかける情熱が伝わり、たくさんの生徒が宇宙に興味を持った様子でした。

5 第 2 回運営指導委員会

発表会閉会后、第 2 回 S S H 運営指導委員会を開きました。運営指導委員の方々には、成果発表会にも出席していただき、その講評も含めて、国分高校 S S H の成果と課題、今後の方向性等についてアドバイスをいただきました。概ね良好な評価をいただきましたが、生徒の主体性の確保や評価システムの確立など、いくつかの指摘を受けました。来年度の活動に生かしていきたいと思えます。



柳川先生の講演「宇宙の扉を開こう」

講演後の座談会

第 2 回運営指導委員会



1 年間の活動を振りかえって



今年 1 年間、「サステナビリティの視座を持った科学系人材育成プログラムの研究開発」を研究開発課題に掲げ、一学年の探究科目「グローバルサイエンス」、理数科の学校設定科目「科学英語」と「S S H 科学リテラシー」をはじめ、さまざまな取り組みを行い、期待以上の成果が得られたと思っています。国分高校の生徒たちの潜在能力の高さを再認識しました。具体的な成果としては以下の通りです。

1 探究活動の普通科へのひろがりや主体性・自主性の向上

普通科生の中に、自発的に市役所や近隣の大学に出かけて研修を受ける生徒、講演等で積極的に質問する生徒、自主ゼミ開設を希望する生徒などが生まれるなど、予想以上に積極的な姿勢が見られました。

2 理数科の探究活動の深化

本通信で紹介したように、全国 S S H 生徒研究発表大会での文部科学大臣表彰をはじめ、理数科サイエンス部が各種コンクールで輝かしい実績を残し、探究活動がさらに深まっていることを示しました。

3 地域連携の推進と地域からの注目

地域の探究資源と地域人材の活用、本校生によるアウトリーチ活動といった地域連携活動サイエンス部の活躍などは、地域に大きなインパクトを与え、入試倍率の向上として、具体的な数値としてあらわれました。

4 教職員の指導力向上

探究活動や学校設定科目の目的を達成するために、教職員が日々研鑽に励み、年間指導計画の作成、教材開発、評価基準の作成などを通して、指導力を向上させつつあります。課題もたくさんありますが、来年度も更なる成果が上がるよう、生徒・職員が一丸となって S S H 活動に取り組みたいと思っています。

